



▲前段右から柴田和樹さん（3年）、長岐征馬さん（2年）、後段右から岸野公祐さん（同）、和田聖翔さん（同）

— 全県、東北、全国大会を振り返っての感想を教えてください。

柴田「それぞれの大会でベストを尽くすことができました。チーム内で声をかけ合えたことが勝利の要因です」
長岐「東北大会では不戦勝が多かったけど、大会を通してずっとよい相撲がとれました。全国のレベルも知ることができ、来年に繋がると感じています」
岸野「よい時とダメな時の差が大きく、また、全国には強い相手がたくさんいると分かり、よい機会となりました」
和田「大会を通して自分やチームの反省点が多く見つかり、有意義な大会になりました」

— 相撲の楽しさや魅力は何ですか？

長岐「最後まで何が起きるか分からないところ。また、自分の思いどおりの相撲が取れた時は最高に気持ちよいです」
和田「練習や試合を重ねるごとに、勝てなかった相手に勝てるようになるなど、自分が強くなっている実感が分かるので楽しいです」

— 自分の得意技や持ち味は何ですか？

柴田「得意技は上手投げです。持ち味は身体が小さいので、たくさん動いて相撲を取ることができます」
岸野「得意技は四つ相撲（カ士がお互いに差し合い、身体を密着させながら取る相撲）、押し出し、寄り切りです」

— 最後にチームのメンバーにメッセージをお願いします！

柴田「みんなのおかげでよい景色を見る

— 秋田県大会・そして県大会優勝を振り返っての感想を教えてください。

田中「どんな場面でも感情を全面に出しながら、チーム一丸となって熱く戦い抜くことができました。最後のアウトを取った時は、嬉しさと『本当に甲子園が決まったのか？』という不思議な気持ちが入り混じっていました」

佐藤（「打撃では」一人ひとりがつなぐ意識をしっかりと持ち、確実に得点に結びつけることができました。最後まで全員が気を緩めることなく一球に集中できたことが優勝への大きな要因だと思います。メダルをかけられた時に『甲子園に行けるんだ』と実感が湧きました」

— 甲子園（開会式〜聖學学園戦）を振り返っての感想を教えてください。

田中「思ったより緊張はしませんでした。が、無意識のうちに『甲子園』を意識してしまい、思い通りのプレーができませんでした。しかし最後まで諦めず、仲間と野球を楽しむことができました」

— これまでを振り返って、高校野球はいかがでしたか？

田中「キャプテンとして、時には厳しい言葉をかけながら常に『日本一』を意識して取り組めました。挨拶や礼儀、野球に取り組む姿勢など自信を持って日本一のチームだといえます。リーダーシップを学ぶよい機会となり、人として成長できました」
佐藤「ライバルの存在がいてくれたおかげで、切磋琢磨でき、充実した時間を過ごせました。高校野球を通して、身体だけでなく精神的にも強く、大きくなりました！」



▲右から田中元輝さん（3年・合川中出身）、佐藤天さん（同）

— 最後にこれまでお世話になったご両親にメッセージをお願いします！

田中「ベストコンディションで試合に臨めるよう、たくさんサポートしていただきありがとうございます。大学でも野球を頑張ります！」
佐藤「朝早くから夜は遅い時間の送迎や私の要望を聞いてくれたながら美味しいお弁当を作ってくれてありがとうございます！」

「11年ぶり4回目の甲子園出場！」

「最後まで『日本一』を 貫き通すことができた」



能代松陽高校野球部

【創部初の全県・東北総体団体優勝！】

「来年は東北2連覇、そして 全国入賞を目指して」



鷹巣中学校相撲部

ことができました。来年のさらなる活躍を期待しています！」
長岐「来年はもっと上にいけるよう、これからも一緒に練習を頑張ろう！」
岸野「チームワークにさらなる磨きをかけて、来年も全県・東北優勝しよう！」
和田「厳しい練習も声をかけ合いながら乗り越えて、来年は絶対に全国入賞しよう！」